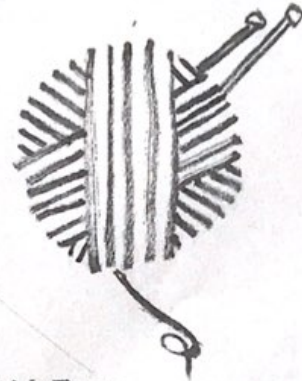


母塾

2021・2・24

VOI-52

illustrated by Tsugumi



『「イヤだったこと」にありがとう』 いのはなはるこ

日曜日に従兄弟の結婚式に行ってきました。

2月とは思えない暖かな日でした。

最後に新郎新婦がご両親に手紙を読みました。

新郎は「小さな時からサッカーを厳しく教えられてそれがすごくイヤでした。」と

新婦は「始めた習い事を全部やめさせてくれなかったことがイヤでした。」と

「でも、それが愛情だったと気づき、今そのイヤだったことが財産になっています。」と

両親がやってくれた、たくさんの嬉しかったことではなく、イヤだと思っていたこと。

それを二人とも挙げていたのに驚きました。

たぶん二人は今とても幸せで、おとなになったのだな、と思いました。

子どもは勝手です。

「ママがあの方にピアノを厳しく続けさせてくれたら、私違う人生だった」と言ったり、

「僕に向いていない柔道を続けさせられたのは時間のムダだったよ」と言ったり、

何がその子にとって正解なのか？など誰もわからないのです。

ましてや、親は子どもを客観的に見られず、期待もかけます。

親の願いと子どもの気持ちは一致するわけではありません。

親も未熟なのです。だけれど、その時、真剣に向き合っていたのです。

おとなになって、親にやってもらった嬉しかったことには感謝します。

でも、イヤだったことは許すことが出来ずに恨んでしまいます。

「あれっ。でも実はあのイヤだった経験こそが自分を作っている？」と

気づいたとき、本当に育ててもらったことに心から感謝できるのでしょうか。

未熟だった親を許すことは「過去」をゆるすこと。

未熟な子どもを許すことは「未来」をゆるすこと。

未熟な自分を許すことは「今」をゆるすこと。

みんな手探りで間違いながらも進んでいるのです。

harukoinohana1717@gmail.com